

小郡博多道遺跡 2

—福岡県小郡市小郡所在遺跡の調査報告—

小郡市文化財調査報告書第274集

2013

小郡市教育委員会

<序 文>

小郡市は、北部における宅地開発や北東・中南部における工業団地の開発が相次いで行われ、現在福岡・久留米両市のベッドタウンとして日々発展を続けています。これに伴い、交通網の整備も着々と進捗しつつあります。

今回ここに報告する「小郡博多道遺跡2」は、共同住宅建設に先だって小郡市教育委員会が実施した埋蔵文化財発掘調査の報告書です。

遺跡は、三国丘陵から伸びる洪橋台地の縁辺部に築かれています。今回の調査では、小郡町から長崎街道へ抜ける脇道であった博多道を中心に18世紀前半～中葉の遺構を確認しました。博多道は、文書資料が乏しいものの、平成17年の発掘調査成果等から近世には道として使用されていたことが解明されつつあります。今回は博多道の構造に着目して調査を行いました。これらの調査成果が、小郡市の歴史を復元する一助となれば幸いです。

最後になりましたが、地権者の森山信義さん、森山久枝さん、開発者の㈱アトラックス、調査にご理解とご協力をいただいた周辺住民の皆様、現地作業にあたった地元作業員の皆様など、発掘調査を進める際にお世話になった多くの方々へ深く感謝を申し上げ、序文といたします。

平成25年3月31日

小郡市教育委員会
教育長 清武 輝

<例 言>

- 1、本書は、小郡市小郡地内における共同住宅建設事業に伴って、小郡市教育委員会が平成23年度に発掘調査を行った小郡博多道遺跡2の埋蔵文化財発掘調査の記録である。
- 2、遺構の実測は西江幸子のほかに吉田あや子、久住愛子、白木千里、柳美保幸、井上千代美、永倉さゆみが実施し、遺構の写真撮影は西江が実施した。
- 3、遺物の復元・実測・製図には、西江のほかに久住愛子、白木千里、衛藤知嘉子、佐々木智子、南條由美、平嶋直美、宮崎美穂子ら諸氏に多大なる協力を得た。また、遺物の写真撮影は(有)文化財写真工房に委託した。
- 4、遺構図中の方位は座標北を示し、図上の座標は国土座標第Ⅱ系(世界測地系)に則している。
- 5、本書で用いた標高は、東京湾平均海面(T. P.)を基準としている。
- 6、遺物・実測図・写真は小郡市埋蔵文化財調査センターにて管理・保管している。
- 7、本書の執筆・編集は西江が担当した。

本文目次

第1章 調査の経過と組織	1	第4章 遺構と遺物	3
1. 調査の経緯		1. 道路状遺構	
2. 調査の経過		2. 溝	
3. 調査の体制		3. 土坑	
第2章 位置と環境	2	4. 畝群	
第3章 遺跡の概要	3	第5章 まとめ	12
		1. 博多道の変遷について	

挿図目次

第1図 小郡博多道遺跡2周辺遺跡分布図 (S = 1/25,000)
第2図 小郡博多道遺跡2調査地位置図 (S = 1/2,500)
第3図 博多道・3号溝・5号溝実測図 (S = 1/80)
第4図 博多道・3号溝・5号溝土層断面実測図① (S = 1/40)
第5図 博多道・3号溝・5号溝土層断面実測図② (S = 1/40)
第6図 1号溝・2号溝実測図 (1号溝平面図:S = 1/80、その他:S = 1/40)
第7図 4号溝・1号土坑・畝群実測図 (畝群:S = 1/80、その他:S = 1/40)
第8図 博多道・3号溝・5号溝・1号溝・4号溝出土遺物実測図 (S = 1/4)
第9図 博多道の路面の変遷 (S = 1/50)

表目次

小郡博多道遺跡2出土遺物観察表

図版目次

図版1	①西側調査区全景(南側から) ②東側調査区全景(南側から) ③博多道硬化面検出状況(北側から) ④博多道・3号溝完掘(北側から) ⑤博多道完掘(北側から)	図版3	①博多道E-E'ベルト土層断面(南側から) ②3号溝・博多道F-F'ベルト土層断面(南側から) ③5号溝G-G'ベルト土層断面(北側から) ④1号溝完掘(南側から) ⑤1号溝A-A'ベルト土層断面(南側から) ⑥1号溝B-B'ベルト土層断面(北側から)
図版2	①5号溝A-A'ベルト土層断面(北側から) ②博多道A-A'ベルト土層断面(北側から) ③3号溝A-A'ベルト土層断面(北側から) ④5号溝B-B'ベルト土層断面(北側から) ⑤博多道・3号溝B-B'ベルト土層断面(北側から) ⑥博多道・3号溝C-C'ベルト土層断面(北側から) ⑦3号溝D-D'ベルト土層断面(南側から) ⑧博多道D-D'ベルト土層断面(南側から)	図版4	①2号溝完掘(南側から) ②2号溝A-A'ベルト土層断面(北側から) ③2号溝B-B'ベルト土層断面(北側から) ④4号溝土層断面(南側から) ⑤4号溝完掘(南側から) ⑥1号土坑完掘(北側から) ⑦1号土坑土層断面(北側から)
		図版5	博多道・3号溝・5号溝・1号溝・4号溝出土遺物

付図目次

付図 小郡博多道遺跡2 調査区全体図 (S = 1/100)

第1章 調査の経過と組織

1. 調査の経緯

小郡博多道遺跡2の発掘調査は、小郡市祇園2丁目6-2、6-10における共同住宅建設に先立ち、地権者より平成23年8月5日付で小郡市教育委員会に対して埋蔵文化財の有無に関する照会（審査番号11065）が提出されたことに始まる。市教委では、これを受けて平成23年8月18日に申請地の発掘調査を行った結果、地表下約20cm～40cmの深さで遺構が確認されたため、開発に先立って埋蔵文化財に関する協議を行った。

協議の結果、敷地のうち共同住宅建設部分の540㎡について発掘調査を実施することとなった。

2. 調査の経過

発掘調査は平成23年9月9日から同年11月2日にかけて実施した。調査の主な経過は以下のとおりである。

- 9月9日 調査対象地の仮囲いを設置。
西側調査区において重機による表土剥ぎ開始。（～12日）
- 9月13日 発掘道具の搬入。
- 9月14日 発掘作業員を投入し、西側調査区の遺構掘削開始。
- 10月6日 西側調査区的全景写真撮影。
- 10月11日 西側調査区の遺構実測終了。
- 10月12日 西側調査区において重機による埋め戻し。
東側調査区において重機による表土剥ぎ開始。（～13日）
- 10月17日 発掘作業員を投入し、東側調査区の遺構掘削開始。
- 10月24日 東側調査区的全景写真撮影。
- 10月26日 東側調査区の遺構実測終了。
- 10月27日 発掘道具の搬出。
- 10月28日 東側調査区において重機による埋め戻し。
- 11月2日 調査完了。

3. 調査の体制

小郡博多道遺跡2の調査の体制は、以下のとおりである。

[平成23年度・平成24年度]

小郡市教育委員会

- 教育長 清武 輝
- 教育部長 吉浦大志博
- 文化財課長 片岡 宏二
- 係長 柏原 孝俊
- 技師 西江 幸子（調査・整理担当）

[発掘作業従事者]

荒巻国利、石井京子、伊東みさ子、岩原春代、草場誠子、黒瀬明、佐藤照子、佐藤睦美、田中賢二、土井久江、松永康弘（敬称略）

第2章 位置と環境

小郡市は、中央部を南北に宝満川が流れ、北西部に通称三国丘陵、北東部に花立山（標高130.6m）から伸びる丘陵があり、南側は緩やかに下る平坦な台地へ移行し、筑後平野へと連なる。

小郡博多道遺跡2（1）は、三国丘陵からならだかに伸びる低位台地の縁辺部に位置する。

小郡博多道遺跡は、平成17年度に本調査地の南隣りで第1次調査が実施されている。第1次調査では、本調査区でも確認した博多道や溝が見つかった（1：市報告214集）。以下では、本遺跡の周辺地域に分布する遺跡を中心に歴史的環境の概要を示す。

小郡地区において人々の活動が最初に確認されたのは旧石器時代である。小郡中尾遺跡（2：市報告41集）で黒曜石製台形石器、小郡正尻遺跡（3：県横断7集）で黒曜石製ナイフ形石器が出土した程度であるが、小郡市内では旧石器時代の活動の痕跡があまり見つからないことから非常に貴重なものと言える。縄文時代になると、早期に小郡中尾遺跡や小郡向築地遺跡（4：市報告5集）から押型土器が見つかり、小郡若山遺跡（5：市報告57集）では後期前葉の磨消縄文土器が出土した。しかし、これらは遺構に伴うものではなく人々の具体的な活動は不明である。

弥生時代になると、人々の活動は活発化する。前期に小郡若山遺跡6（5：市報告159集）で住居が見つかったが、中期になると小郡若山遺跡を含め小郡中尾遺跡、小郡・大板井遺跡（6・7）を中心に広い範囲で集落が見つかる。この集落内には、多鈕細文鏡が出土した小郡若山遺跡3（5：市報告93集）がある。同時期には、小郡野口遺跡（8：市報告73集）でも集落が見つかり、人々の活動の活発化が想定される。後期中頃になると、再び小郡中尾遺跡から小郡・大板井遺跡で人々の活動が見られるとともに、小郡川原田遺跡2（9：市報告163集）では後期後半から終末にかけての井堰が見つかった。

古墳時代は、弥生時代ほど人々の活動は活発ではなくなる。小郡川原田遺跡（9：市報告95集）で周溝状遺構を検出した程度で、集落はほとんど見つからない。近隣では、初頭から前期に大崎小園遺跡1・3（10：市報告24・136集）や寺福童遺跡1（市報告144集）で外来系の土器が出土し、他地域との交流が想定される一方で、福童町遺跡1（市報告203集）のように在地系の土器しか出土しない遺跡もある。

古代になると、筑後国御原郡衛に比定される小郡官衛遺跡を中心に小坂井京塚遺跡2（11：市報告113集）、小郡前伏遺跡（12：県横断11集）、小郡遺跡8（6：市報告128集）では官道が、小郡堂の前遺跡1・2（13：市報告51・188集）、小郡正尻遺跡が溝が、大板井遺跡（7）、小郡向築地遺跡、小郡前伏遺跡、小坂井京塚遺跡1・3（11：市報告71・201集）、大崎小園遺跡（10）では集落が広い範囲で見つかり、人々の活発な活動が想定される。

中世になると区画溝や水田に利用されたと考えられる溝が福童山の上遺跡2・3・4・5（14：市報告100集・114集・170集・171集）で検出されている。

江戸時代になると、道の整備が進み肥前から小郡町、松崎町を経由して筑前へ抜ける秋月街道（15）（彦山道）（16）が延宝元年（1673）に整備された。今回の調査で検出した博多道も同時期頃に整備されたと想定される道である。今後は、こうした道と人々の活動との関わりについて明らかにされていくことが期待される。



第1図 小郡博多道遺跡2周辺遺跡分布図
(S = 1/25,000)

第3章 遺跡の概要

小郡博多道遺跡2は、小郡市の中央部、三国丘陵からなだらかに伸びる低位台地の縁辺部に位置し、標高17.1m前後、遺構検出面で16.8m前後を測る。開発が及ぶ以前には駐車場として使用されていたため、表層はコンクリートと礫層で覆われている。その下層に黒褐色土層が堆積し、その下より、遺構検出面である茶褐色ローム層を検出した。

小郡博多道遺跡2では、現代のゴミ穴など多数の攪乱を受けていたものの、博多道や溝を中心に遺構を検出した。博多道では、2面の硬化面を確認したことから、道は一度改築されていたことがわかった。また、博多道の西側で検出した溝は、土層の切り合い関係より博多道の側溝と考えられる。

今回検出された遺構のうち、博多道、1号溝、2号溝、3号溝は、いずれも小郡博多道遺跡の第1次調査から続く遺構である。

小郡博多道遺跡2で検出した遺構・遺物は以下のとおりである。

●遺構

- ・博多道 1条 ・土坑 1基
- ・溝 5条 ・畝群



第2図 小郡博多道遺跡2調査地位位置図 (S = 1/2,500)

●遺物

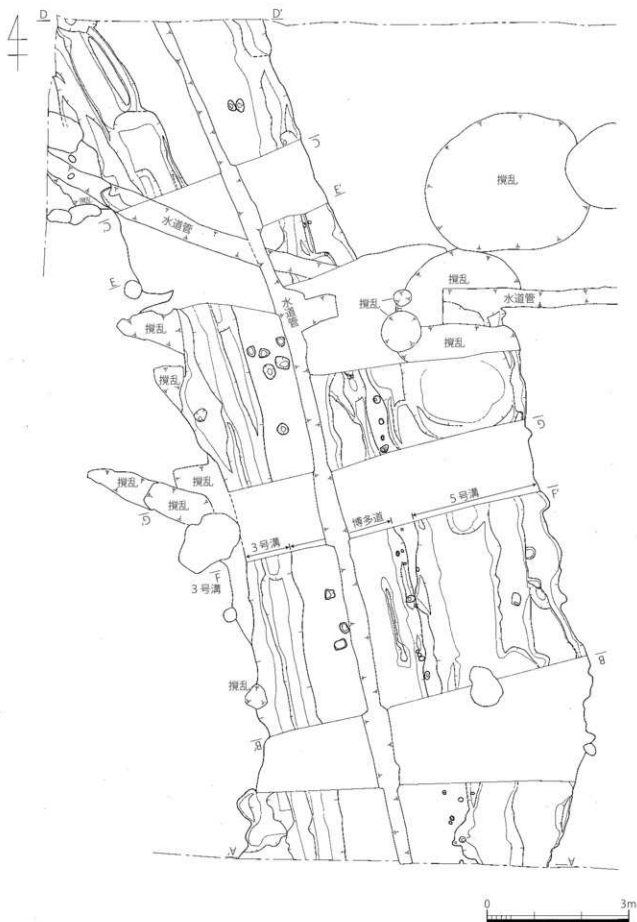
- ・陶磁器
- ・貨幣

第4章 遺構と遺物

1. 道路状遺構 (第3・4・5図、図版1・2・3)

調査区西側において検出した南北方向に伸びる道路状遺構である。地籍図との照合が行われている南隣の小郡博多道遺跡第1次調査で検出された道路状遺構の続きにあることから、近世小郡町から博多方面へ抜ける脇道「博多道」と考えられる。博多道の西側には、側溝(3号溝)を持つ。博多道の東側にも3号溝と同じくらいの幅で大きな溝(5号溝)を検出した。最初は、博多道に伴う側溝と考え掘り下げを行っていたが、土層の切り合い関係や土層B・B'ベルトのようなコンクリートブロックの配置関係より、博多道の2面ある硬化面のうち上面形成後に掘られたものであると考えられる。よって、博多道の側溝ではないことがわかった。

路面は現状で長さ約18.0mを測り、唐鎌でも掘削に時間を要するほど固く土が堆積している硬化面やコンクリートブロックなどが多数出土した瓦礫面の存在などから、2面の路面を確認できた。上面の路面は、地表面より深さ40cmのところ幅約370cmを確認した。上面からは水道管の掘り込みが見られる。下面の路面は、上面の路面より深さ10～40cmのところ幅90～125cm、硬化面の厚さ約10cmを確認した。土層の切り合い関係より、下面の路面を使用していた頃には西側の側溝(3号溝)は機能していたが、上面の路面を使用していた頃には埋められていたと考えられる。路面の形状であるが、下面の路面使用時には、地表面より一段低く掘り込まれた道であったが、上面の路面使用時には地表面と同じ高さまで土が盛られている。路面は2面ともに小郡博多道遺跡第1次調査のような幾筋もの小溝



第3图 博多道・3号溝・5号溝実測图 (S = 1/80)

は確認できなかったものの、下面使用時の面で水溜りの痕跡は見つかった。小郡博多道遺跡では、当初は特に舗装のない道路で、周囲の高さより一段低い位置に路面があったと推測されているが、今回の調査により、博多道形成時の道路は、周囲の高さより一段低い位置に砂を固めた硬化面を持つ道路であるが、その後の改築により、周囲の高さに合わせた道路へと変遷したことが分かった。路面の状況や側溝（3号溝）との関係についての詳細は、第5章まとめに譲る。

遺物は、磁器片、陶器片を中心に小片が出土したが、図化するに至ったものは少ない。また、最下層にある硬化面と次の硬化面との間の層で貨幣1点が出土している。

出土遺物（第8図、図版5）

1は磁器の皿、2・3は陶器の播鉢であり、最下層にある硬化面近くの層より出土した。1は内外面に染付が描かれており、18世紀前半～中葉にかけてのものと考えられる。2は小片のため播目の単位は不明であるが、3は13本1単位の播目である。その他、下面の路面と上面の路面との間の層で見つかった貨幣は、大正9年製の一銭硬貨である。

2. 溝

1号溝（第6図、図版3）

調査区東側において検出した南北方向に伸びる溝であり、小郡博多道遺跡第1次調査で検出した1号溝に続く遺構である。現状で全長約17.9m、幅50～70cm、深さ30cm前後を測り、断面形状は逆台形を呈する。埋土はレンズ状堆積であり、黄褐色土の地山の土を少し含んでいる。

遺物は、陶器が1点出土したのみである。

出土遺物（第8図、図版5）

9は陶器の壺である。胴部に付着している耳は、先端が欠損している。

2号溝（第6図、図版4）

調査区の中央部南側において検出した北西方向に伸びる溝であり、小郡博多道遺跡第1次調査で検出した2号溝に続く遺構である。北側は攪乱に切られているものの、現状で全長約4.9m、幅45cm、深さ15～20cmを測り、断面形状は逆台形を呈する。埋土は、南壁側で攪乱を受けているものの、単層のみである。

遺物は、陶器の小片が1点出土したが、図化するに至らなかった。

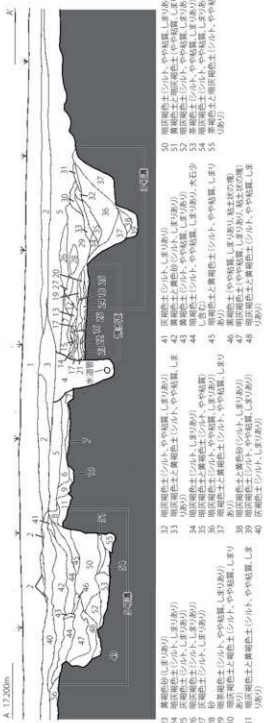
3号溝（第3・4・5図、図版1・2・3）

調査区の西側、博多道の西隣において検出した南北方向に伸びる溝であり、小郡博多道遺跡第1次調査で検出した4号溝に続く遺構である。現状で全長約18.0m、上面時で幅50～100cm、深さ30～40cmを測る。下面時では、幅80～120cm、深さ60～80cmを測り、断面形状はU字状を呈する。埋土は基本的にはレンズ状堆積であり、3号溝を使用している時には、1～2度堆積した土を掘り直していたと考えられる。土層堆積状況より、博多道の下面の路面時には博多道の側溝であったが、博多道の上面の路面時には一気に埋められ側溝としての機能を終えたと考えられる。

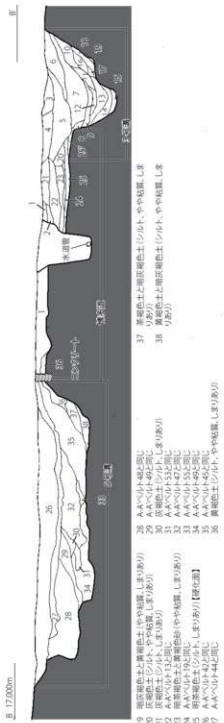
遺物は、磁器片を中心に陶器片、土師器片が出土したが、小片が多く図化するに至ったものは少ない。

出土遺物（第8図、図版5）

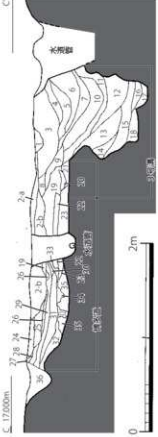
4は磁器の猪口であり、最下層より出土した。5は磁器の小杯であり、内外面に染付が描かれている。6・7は、磁器の碗であり、内外面に染付が描かれている。5・6・7は上層を中心に埋土中より出土しており、形態的特徴から近代のものと考えられる。



- 博多道・3号溝・5号溝 断面A**
- 1 厚層砂土(シルト)
 - 2 厚層砂土(シルト)
 - 3 厚層砂土(シルト)
 - 4 厚層砂土(シルト)
 - 5 厚層砂土(シルト)
 - 6 厚層砂土(シルト)
 - 7 厚層砂土(シルト)
 - 8 厚層砂土(シルト)
 - 9 厚層砂土(シルト)
 - 10 厚層砂土(シルト)
 - 11 厚層砂土(シルト)
 - 12 厚層砂土(シルト)
 - 13 厚層砂土(シルト)
 - 14 厚層砂土(シルト)
 - 15 厚層砂土(シルト)
 - 16 厚層砂土(シルト)
 - 17 厚層砂土(シルト)
 - 18 厚層砂土(シルト)
 - 19 厚層砂土(シルト)
 - 20 厚層砂土(シルト)
 - 21 厚層砂土(シルト)
 - 22 厚層砂土(シルト)
 - 23 厚層砂土(シルト)
 - 24 厚層砂土(シルト)
 - 25 厚層砂土(シルト)
 - 26 厚層砂土(シルト)
 - 27 厚層砂土(シルト)
 - 28 厚層砂土(シルト)
 - 29 厚層砂土(シルト)
 - 30 厚層砂土(シルト)
 - 31 厚層砂土(シルト)
 - 32 厚層砂土(シルト)
 - 33 厚層砂土(シルト)
 - 34 厚層砂土(シルト)
 - 35 厚層砂土(シルト)
 - 36 厚層砂土(シルト)
 - 37 厚層砂土(シルト)
 - 38 厚層砂土(シルト)
 - 39 厚層砂土(シルト)
 - 40 厚層砂土(シルト)
 - 41 厚層砂土(シルト)
 - 42 厚層砂土(シルト)
 - 43 厚層砂土(シルト)
 - 44 厚層砂土(シルト)
 - 45 厚層砂土(シルト)
 - 46 厚層砂土(シルト)
 - 47 厚層砂土(シルト)
 - 48 厚層砂土(シルト)
 - 49 厚層砂土(シルト)
 - 50 厚層砂土(シルト)
 - 51 厚層砂土(シルト)
 - 52 厚層砂土(シルト)
 - 53 厚層砂土(シルト)
 - 54 厚層砂土(シルト)
 - 55 厚層砂土(シルト)



- 博多道・3号溝・5号溝 断面B**
- 1 AA'6047-2(シルト)
 - 2 AA'6047-2(シルト)
 - 3 AA'6047-2(シルト)
 - 4 AA'6047-2(シルト)
 - 5 AA'6047-2(シルト)
 - 6 AA'6047-2(シルト)
 - 7 AA'6047-2(シルト)
 - 8 AA'6047-2(シルト)
 - 9 AA'6047-2(シルト)
 - 10 AA'6047-2(シルト)
 - 11 AA'6047-2(シルト)
 - 12 AA'6047-2(シルト)
 - 13 AA'6047-2(シルト)
 - 14 AA'6047-2(シルト)
 - 15 AA'6047-2(シルト)
 - 16 AA'6047-2(シルト)
 - 17 AA'6047-2(シルト)
 - 18 AA'6047-2(シルト)
 - 19 AA'6047-2(シルト)
 - 20 AA'6047-2(シルト)
 - 21 AA'6047-2(シルト)
 - 22 AA'6047-2(シルト)
 - 23 AA'6047-2(シルト)
 - 24 AA'6047-2(シルト)
 - 25 AA'6047-2(シルト)
 - 26 AA'6047-2(シルト)
 - 27 AA'6047-2(シルト)
 - 28 AA'6047-2(シルト)
 - 29 AA'6047-2(シルト)
 - 30 AA'6047-2(シルト)
 - 31 AA'6047-2(シルト)
 - 32 AA'6047-2(シルト)
 - 33 AA'6047-2(シルト)
 - 34 AA'6047-2(シルト)
 - 35 AA'6047-2(シルト)
 - 36 AA'6047-2(シルト)
 - 37 AA'6047-2(シルト)

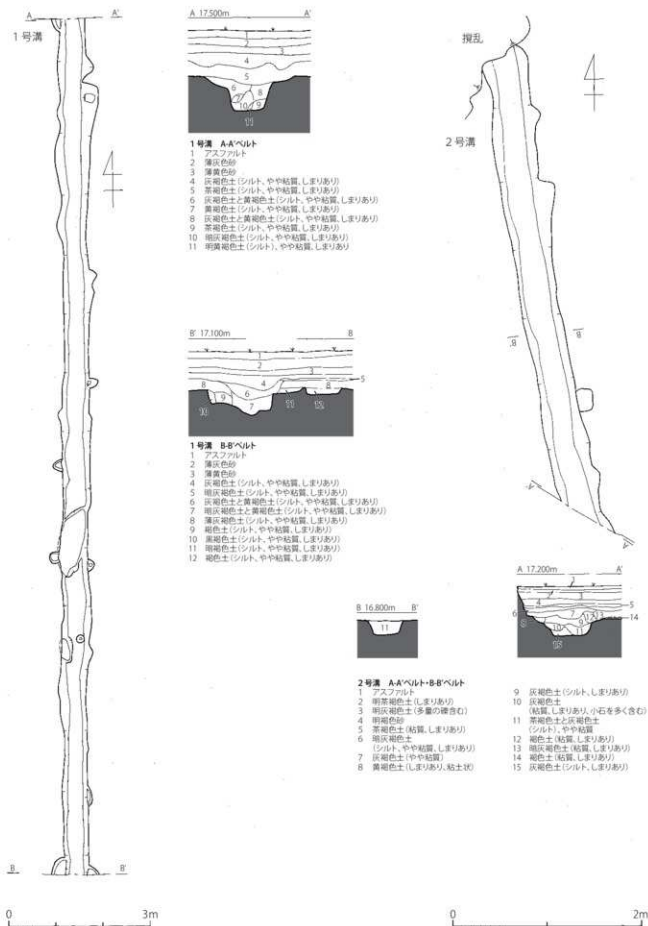


- 博多道・3号溝・5号溝 断面C**
- 1 AA'6047-2(シルト)
 - 2 AA'6047-2(シルト)
 - 3 AA'6047-2(シルト)
 - 4 AA'6047-2(シルト)
 - 5 AA'6047-2(シルト)
 - 6 AA'6047-2(シルト)
 - 7 AA'6047-2(シルト)
 - 8 AA'6047-2(シルト)
 - 9 AA'6047-2(シルト)
 - 10 AA'6047-2(シルト)
 - 11 AA'6047-2(シルト)
 - 12 AA'6047-2(シルト)
 - 13 AA'6047-2(シルト)
 - 14 AA'6047-2(シルト)
 - 15 AA'6047-2(シルト)
 - 16 AA'6047-2(シルト)
 - 17 AA'6047-2(シルト)
 - 18 AA'6047-2(シルト)
 - 19 AA'6047-2(シルト)
 - 20 AA'6047-2(シルト)
 - 21 AA'6047-2(シルト)
 - 22 AA'6047-2(シルト)
 - 23 AA'6047-2(シルト)
 - 24 AA'6047-2(シルト)
 - 25 AA'6047-2(シルト)
 - 26 AA'6047-2(シルト)
 - 27 AA'6047-2(シルト)
 - 28 AA'6047-2(シルト)
 - 29 AA'6047-2(シルト)
 - 30 AA'6047-2(シルト)
 - 31 AA'6047-2(シルト)
 - 32 AA'6047-2(シルト)
 - 33 AA'6047-2(シルト)
 - 34 AA'6047-2(シルト)
 - 35 AA'6047-2(シルト)
 - 36 AA'6047-2(シルト)
 - 37 AA'6047-2(シルト)

第4図 博多道・3号溝・5号溝土層断面実測図① (S=1/40)



第5図 博多道・3号溝・5号溝土層断面実測図② (S=1/40)



第6図 1号溝・2号溝実測図(1号溝平面図: S = 1/80、その他: S = 1/40)

4号溝 (第7図、図版4)

調査区の中央部北側において検出したL字状に屈曲する溝で、現状で全長約4.3mを測る。遺構は、調査区北壁から南方向に約3.8m伸びたところで西方向に屈曲し、西方向に約50cm伸びたところで木の根の攪乱にぶつかる。幅55～70cm、深さ33～55cmを測り、断面形状は逆台形を呈する。埋土中より土管の破片が出土しており、土層より土管が通っていたと思われる6層が存在することから、下水用の溝と想定される。

遺物は、磁器片1点と土師器の皿片1点が出土したが、土師器は小片のため図化するに至らなかった。

出土遺物 (第8図、図版5)

10は磁器の皿である。外面には花文の染付が描かれている。

5号溝 (第3・4・5図、図版1・2・3)

調査区の西側、博多道の東隣において検出した南北方向に伸びる溝である。土層堆積状況より、博多道の上面の路面形成後に掘られていることから、博多道の側溝ではないと考えられる。現状で全長約12.0m、幅180～330cm、土層G-C'ベルトの北側で深さ130cmと深くなるものの、それ以外の所では深さ60～75cmを測り、断面形状は逆台形を呈する。

遺物は、土師器片・陶器片・磁器片が数点出土したが、小片のため図化するに至ったものは少ない。

出土遺物 (第8図、図版5)

8は陶器の甕である。口縁端部から頸部にかけては肥前産の陶器の甕に似た形状をしており、内外面ともに釉薬が垂れ流れている。

3. 土坑

1号土坑 (第7図、図版4)

調査区の西部中央において検出した土坑である。平面形は、140cm×105cmの楕円形を呈し、深さは66cmを測る。東南方向に向かって深く掘り込まれている。

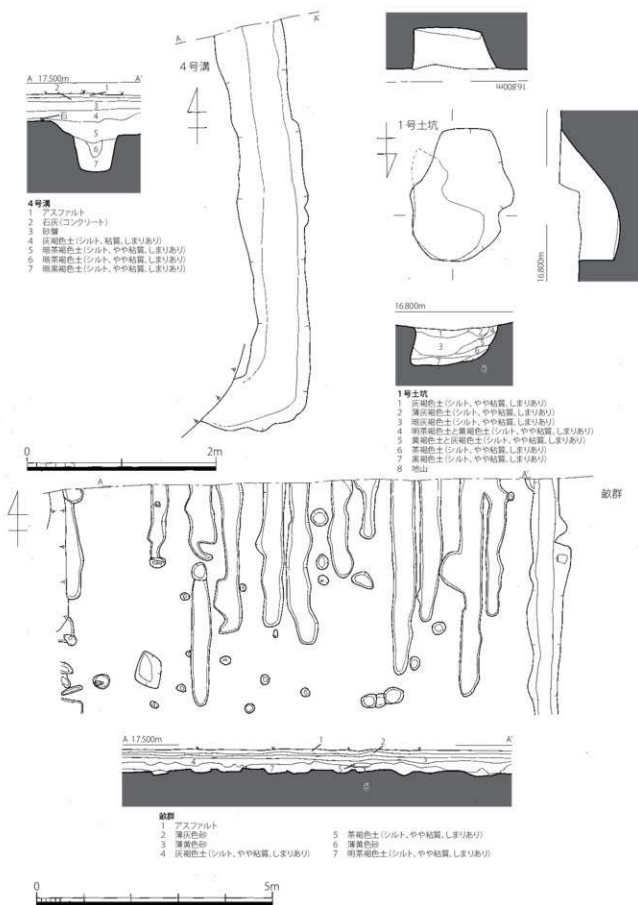
遺物は出土しなかった。

4. 畝群

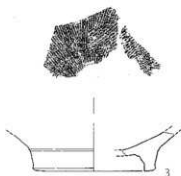
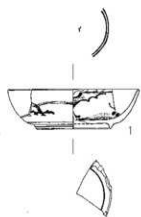
畝群 (第7図)

調査区の中央部北壁際にて検出した南北方向の畝群であり、一部は調査区外に及ぶ。遺構検出面の茶褐色ローム層で畝溝の掘り込みが確認できた。畝溝は30～50cmの幅を持ち、畝溝内では凹凸が確認できなかった。

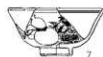
遺物は磁器の小片が数点出土したのみであるが、図化するに至らなかった。



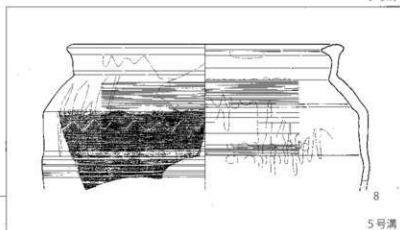
第7図 4号溝・1号土坑・畝群実測図(畝群:S=1/80、その他:S=1/40)



博多道



3号溝



5号溝

1号溝 4号溝



第8図 博多道・3号溝・5号溝・1号溝・4号溝出土遺物実測図 (S = 1/4)

第5章 まとめ

今回の調査で検出した遺構のうち、土層観察や出土遺物より時期が明確なのは、博多道、3号溝である。1号溝、2号溝は、遺物からは時期が特定できないものの、本調査地の南隣りの小部博多道遺跡第1次調査で検出した18世紀頃と推定される遺構（1号溝、2号溝）から続くことから、およそ同時期の遺構と考えられる。

今回の調査では、博多道の構造とその変遷に着目して発掘を行った。博多道の道路形状については、小部博多道遺跡第1次調査の報告書において「周囲の高さより一段低い位置に路面があった」ことが指摘されている（市報告第214集）。今回の調査でも同様であったことを確認したが、その他にも側溝（3号溝）との関係や変遷など新たに確認できたことがある。以下では、時代順において、博多道の変遷をまとめた。

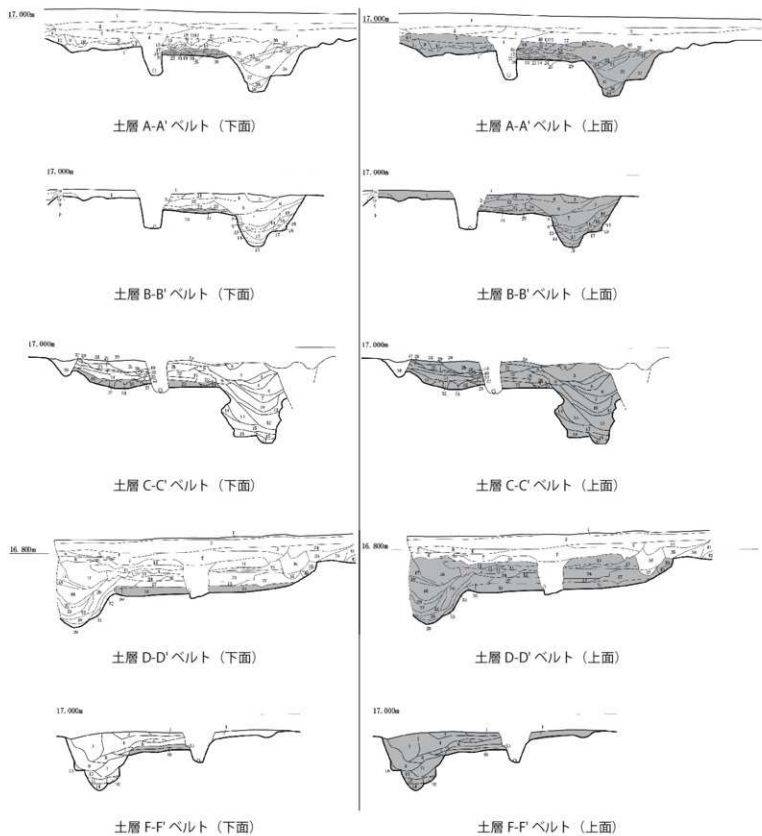
1. 博多道の変遷について

今回の調査では、博多道の路面を2面確認し、1度路面構造を造り直していることが分かった。ここでは、その2面を上面と下面に区分し、時期ごとに側溝（3号溝）との関係やその特徴についてまとめることとする。

まず、博多道の下面の路面についてである。南側では5号溝による攪乱で残りが悪いものの、北側では残りが良く、博多道の幅や形状が推測できる。幅は、南北に伸びる博多道に沿って水道管の攪乱があることから、推測の域を出ないが、土層F-Fベルトより90cm以上125cm以下であると考えられる。形状については、土層E-E'ベルト・土層F-Fベルトで見られるように、少なくとも当時の周囲の高さから約10cm低い位置に路面を形成している。路面は、土層F-Fベルトの11層から分かるように垂直に掘り込まれていることから、周囲より低い位置で路面を形成するために、人為的に掘り込み、地山から約10cmの厚さで土をなすり路面を造ったと考えられる。路面には、小部博多道遺跡第1次調査のような浅筋もの小溝は確認できなかったものの、水が沈殿した痕跡を確認した。次に側溝（3号溝）との関係である。土層A-A'ベルト・土層B-B'ベルト・土層C-C'ベルト・土層D-D'ベルト・土層F-F'ベルトの堆積状況から分かるように、側溝（3号溝）は機能しており、1～2度堆積した土を掘り直しながら使用していたと考えられる。博多道の下面の路面と側溝の時期については、下面の路面近くの埋土から、大正9年製の硬貨が出土した。また、第8図のように18世紀前半～中葉の磁器が出土していることから、少なくともこの時期には道路として使用され、大正9年にも下面の道路が使用されていたと考えられる。第8図のように側溝（3号溝）の出土遺物は近代のものが中心であるが、最下層近くからは18世紀前半～中葉の磁器が出土していることから、博多道下面の道路と同じくこの時期には博多道の側溝として機能していたと考えられる。

次に、博多道の上面の路面についてである。この時期になると、土層の堆積状況や遺構検出面において瓦礫や大量のコンクリートブロックが出土することから想定されるように、西側の側溝（3号溝）や一段低く掘られた博多道は埋められ周囲の高さと等しくなる。特に、3号溝西側の上端を中心に多量のコンクリートブロックを南北方向で確認しており、これは上面の路面使用時における西側の側壁と考えられる。また、土層A-A'ベルトでは5層において垂直方向の掘り込みを確認でき、土層B-B'ベルトでは博多道東側においてコンクリートブロックを確認していることから、これらが上面の路面使用時における東側の側壁と考えられる。道幅は、東側は土層F-F'で東端を検出しているものの、西側の立ち上がりはコンクリートブロックが多量に出土することを根拠に3号溝西側の上端と考えられ、推定幅約370cmとなる。時期は、コンクリートブロックを側壁として使用する現代になってからの路面と考えられる。

以上より博多道は、西側に側溝を伴う路面が18世紀前半～中葉には使用され、その後コンクリートブロックを使用する現代になって側溝を埋め、路面として再利用していたと想定される。



博多道路面形成時の上面と下面の各時期において、地山から路面までの間に土が堆積した部分にアミカケを行った。なお、博多道の路面の下面時のアミカケは硬化面である。

第9図 博多道の路面の変遷 (S = 1/50)

小郡博多道遺跡2 出土遺物観察表

<出土陶磁器>

法量=□: □径、台: 高台径、高: 器高

器種=磁: 磁器、陶: 陶器

検出番号	図録番号	出土遺構	器種	法量cm (径・三値)	色調	胎土	焼成	成形・調整技法	残存率	備考
1	5	博多道	磁. 皿	□: (13.9) 台: (8.4) 高: 4.2	内外: 明緑灰 (7.5GY8/1)	精緻、襷砂をこくわずかに含む	堅焼	外: 輪業 内: 輪業	□~底約 1/4	染付。 最下層出土。
2	5	博多道	陶. 漆 鉢	高: 5.45	内外: にぶい黄褐 (10YR5/3)	密、襷砂をわずかに含む	稍密	外: 輪業 内: 襷目、輪業	□~胴上 小片	襷目の単位は不明。 最下層出土。
3	5	博多道	陶. 漆 鉢	台: (12.9) 台: 3.85	内外: 緑灰 (10YR5/1) 内: にぶい黄褐 (10YR6/4)	密、襷砂をわずかに含む	堅焼	外: 回転ナデ、輪業 内: 襷目	胴下~底 約1/2	襷目は13本1単位。 最下層出土。
4	5	3号溝	磁. 猪 口	□: (6.0) 台: (2.7) 高: 2.95	内外: 灰白 (2.5GY8/1)	精緻、襷砂をこくわずかに含む	堅焼	外: 輪業 内: 輪業	□~底約 1/2	最下層出土
5	5	3号溝	磁. 小 鉢	□: (9.4) 台: 3.9 高: 3.05	内外: 明緑灰 (7.5GY8/1)	精緻、襷砂をこくわずかに含む	堅焼	外: 輪業 内: 輪業	□~底約 1/2	染付。 遺構検出時出土。
6	5	3号溝	磁. 碗	□: (9.1) 台: 3.9 高: 5.15	内外: 灰白 (10Y8/1)	精緻、襷砂をこくわずかに含む	堅焼	外: 輪業 内: 輪業	□~底約 1/2	染付。 上層・下層出土。
7	5	3号溝	磁. 碗	□: (10.1) 台: 3.4 高: 5.0	内外: 灰白 (7.5Y8/1)	稍密、襷砂をこくわずかに含む	堅焼	外: 輪業 内: 輪業	□~胴上 小片	染付。 上層出土。
8	5	5号溝	陶. 甕	□: (29.3) 高: 14.4	内外: にぶい褐 (7.5YR6/3) ・灰褐 (7.5YR6/2)	密、襷砂をわずかに含む	堅焼	外: カキ斗、波状文、沈線文 内: ハケ斗、回転工具ナデ	□~胴上 約1/5	外面に波状文1条、沈線文4条あり。 内外面ともに輪業が施されている。
9	5	1号溝	陶. 甕	□: (9.5) 高: 3.05	外: 灰白 (5Y7/2) 内: 灰黄褐 (10YR6/2)	精緻、襷砂をこくわずかに含む	堅焼	外: 輪業 内: 回転ナデ	□~胴上 約1/4	耳の先端は欠損。
10	5	4号溝	磁. 皿	□: (12.2) 高: 2.85	外: 灰白 (10Y7/1) 内: 灰白 (N8/)	精緻、襷砂をこくわずかに含む	堅焼	外: 輪業 内: 輪業	□~胴上 約1/5	染付。

<出土貨幣>

検出番号	図録番号	出土遺構	種類	計測値				備考
				長さcm	幅cm	厚さcm	重量g	
5		博多道	貨幣	2.3	2.3	0.1	3.4	大正9年製の1種銭銭。



①西側調査区全景（南側から）



③博多道硬化面検出状況（北側から）



②東側調査区全景（南側から）



④博多道・3号溝完掘（北側から）



⑤博多道完掘（北側から）

図版 2



① 5号溝 A-A' ベルト土層断面 (北側から)



⑤ 博多道・3号溝 B-B' ベルト土層断面 (北側から)



② 博多道 A-A' ベルト土層断面 (北側から)



⑥ 博多道・3号溝 C-C' ベルト土層断面 (北側から)



③ 3号溝 A-A' ベルト土層断面 (北側から)



⑦ 3号溝 D-D' ベルト土層断面 (南側から)



④ 5号溝 B-B' ベルト土層断面 (北側から)



⑧ 博多道 D-D' ベルト土層断面 (南側から)



①博多道 E-E' ベルト土層断面 (南側から)



②3号溝・博多道 F-F' ベルト土層断面 (南側から)



③5号溝 G-G' ベルト土層断面 (北側から)



④1号溝完掘 (南側から)



⑤1号溝 A-A' ベルト土層断面 (南側から)



⑥1号溝 B-B' ベルト土層断面 (北側から)

図版 4



① 2号溝完掘 (南側から)



⑤ 4号溝完掘 (南側から)



② 2号溝 A-A' ベルト土層断面 (北側から)



⑥ 1号土坑完掘 (北側から)



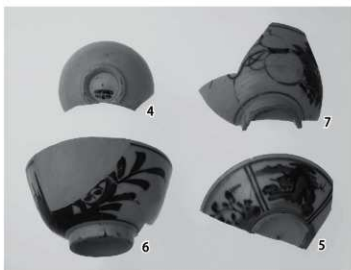
③ 2号溝 B-B' ベルト土層断面 (北側から)



④ 4号溝土層断面 (南側から)



⑦ 1号土坑土層断面 (北側から)



博多道・3号溝・5号溝・1号溝・4号溝出土遺物

報告書抄録

ふりがな	おごおりはかたみちいせき2							
書名	小郡博多道遺跡2							
副書名	福岡県小郡市小郡所在遺跡の調査報告							
巻次								
シリーズ名	小郡市文化財調査報告書							
シリーズ番号	第274集							
編著者名	西江 幸子							
編集機関	小郡市教育委員会							
所在位置	〒838-0198 福岡県小郡市小郡255-1 Tel.0942-72-2111							
発行年月日	平成25年3月31日							
所収遺跡名	所収遺跡所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
小郡博多道遺跡2	福岡県小郡市小郡 おごおりし ぞおん 祇園	40216		33° 23' 59"	131° 26' 51"	2011.9.9 } 2011.11.2	540㎡	共同住宅建設
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
小郡博多道遺跡2	集落	近世 近代 現代	道路状遺構 溝 土坑 畝群	陶磁器 貨幣				
要約	<p>今回の調査では、小郡町から長崎街道へ抜ける脇道であった博多道を中心に18世紀前半代の遺構を多く確認した。その多くは、調査地南隣の1次調査で確認した遺構に続くものであった。中でも博多道は、1次調査で周囲より一段低く掘り込まれて路面を形成していたことが分かっていたが、今回の調査により、博多道西隣の側溝（3号溝）との関係や博多道の変遷が確認できた。これまで、博多道は文書資料が乏しいためその全貌が分かっていたが、1次調査を含める発掘調査の成果より、少なくとも道の構造や変遷がわかり、博多道の解明へと一歩近付いたと言える。</p>							

小郡博多道遺跡2

小郡市埋蔵文化財調査報告書第274集
平成25年3月31日

発行 小郡市教育委員会
福岡県小郡市小郡255-1
出版 片山印刷有限公司
福岡県小郡市祇園1丁目8-15

